

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年7月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690200227
法人名	株式会社シモンズ
事業所名	介護サービスセンター水引 グループホーム鹿野苑
所在地	鹿児島県薩摩川内市網津町4915番地1 (電話) 0996-31-2882
自己評価作成日	平成29年7月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.rokuyaon.net/index.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成29年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○ 当事業所は、活動を通して積極的に地域社会に出向き、社会との繋がりを大切にしている。地域の商店やお寺等、社会資源を積極的に活用することにより、入居前の「地域との繋がりの維持」、日常生活上の「生きがい」、「楽しみの提供」に取り組んでいる。

○ 毎朝、個々の状態にあわせて20分～30分リハビリテーションを実施し、週に1回ADL(日常生活動作)別に3グループに分け、約1時間半のリハビリテーションを行っている。また、個々の評価を3か月に1回、外部の理学療法士と一緒に実施している。

○ 経年による認証の進行が見られる入居者がおられ、IADL(手段的日常生活動作)、脳トレ等が難しくなっている。職員間で入居者様の「情報の共有」を行い、入居者様が今出来る事・したい事に可能な限り沿ったケアを提供できるように検討している。また、本人様及び家族にも、どのような関わり、参加して頂くかを家族を含めて話し合い、家族に対してのフォローの充実を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ 管理者及び職員は、法人の理念や方針に沿って、利用者の尊厳や誇りを大切にしながら敬愛の気持ちで寄り添い、一人一人の想いの把握に努め、その人らしい平穏な生活が過ごせるよう日々取り組んでいる。利用者及び家族の想いや要望等に対しては、職員会議や申し送り時に全職員で検討・協議を行って個別のサービス向上に務めており、利用者及び家族との深い信頼関係が築かれている。

○ ホームは、市の中心地より約10キロメートルほど離れた閑静な農村地帯の一角に、居宅介護支援事業所、ミニデイサービス事業所と共に設置されており、職員研修や防災訓練等は法人全体で一体的に行っている。管理者及び職員は、開設時より地域との関わりを大切にしており、日常の散歩や買い物時の挨拶・会話はもとより、地域の文化祭に作品を出展したり、サロンやお祭り、運動会などの行事に積極的に参加している。また、公園や河川堤防、神社等の清掃に取り組み、中学生のボランティアも受け入れている。地域住民に認知症理解のための講話を実施するとともに、介護や高齢者福祉に関する質問や相談にも誠意をもって対応している。

○ 施設長及び管理者は、職員との協力及び信頼関係が築かれ日々の業務については職員の主体的な取り組みを尊重しており、職員も各自の改善目標を掲げて改善に努めている。

職員から出された要望や意見に対しては、職員全体で話し合っ改善に取り組んでおり、自由に意見を述べ合ったり協議できる体制が築かれている。職場研修の他、外部研修の受講を推奨し、資格取得へのバックアップに努め

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、申送り時に理念を昌和することで、職員一人一人が理念に沿ったケアを実施することが出来ている。ケアの検討を行う際、「自分の親だったら、どの様なケアを受けたいか」を軸に検討を行っている。	ホームの理念及び方針は、全職員が必携している名札の裏面に明記し、申し送り時の唱和や職員会議やユニット会議、ケースカンファレンス等で意義の研修や意見交換を実施して共通の認識を図っている。また、日常的にケアの検討や振り返りを実施して、利用者の尊厳や気持ちを大切にしながら理念に沿ったケアの実践に努めている。職員は年度当初に理念に基づき年間目標をそれぞれに設定し、年3回の自己評価を実施しながら改善に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣病院の運動会、地域のサロン・文化祭等に積極的に参加し、地域との交流に努めている。また、地域の商店やお寺等の地域資源を活用し、地域の一員としての繋がりを維持・継続出来るように支援している。	ホーム開設時より地域との円滑な交流に努めており、自治会に加入し地域の文化祭に利用者の生花を出展したり、お祭りや医療機関の運動会、サロン、近所の神社の清掃や公園、河川のクリーン作戦等に積極的に参加している。中学生のサマーボランティアを受け入れ、家族や友人知人の来訪も多い。また、地域の人から農産物等を頂くなど地域に密着した交流がなされており、地域の人々への認知症や介護に関する講話の実施や高齢者福祉に係る相談等に丁寧に対応している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議や地域のサロンでの認知症の講話等、地域での認知症に対する正しい理解の支援を行っている。また、自立支援事業を行い、認知症予防や介護相談等、介護の窓口としての支援を行っている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み		家族代表・コミュニティ会長・公民館長・自治会長・健やかアドバイザー・行	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催している。利用状況や待機者の状況の報告だけでなく、パワーポイントで毎月の取り組みを写真で紹介する等、参加者に取り組みを理解してもらい易くしている。評価や意見を参考に、サービスの向上に努めている。	政職員・消防署職員等が参加して定期的に開催している。ホームの現況や活動内容、利用者の状況、防災、リスクマネジメント対応等の報告や意見交換を行っている。家族からの要望や行政職員による制度説明、地域住民から在宅の高齢者の情報など活発に意見が出されており、それらをサービスの向上や業務の改善に活かしている。また、毎回「ミニ知識」の時間を設けて、認知症や高齢者福祉に関する勉強会を実施してスキルアップを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加してもらい、活動内容や状況を説明し、意見交換を行っている。定期的に作成している広報紙を市役所に届ける等、担当者だけでなく高齢介護福祉課に、活動内容を知ってもらうようにし、日頃からの連携に心掛け、協力関係を築いている。	市担当者が毎回運営推進会議に出席し、ホームの運営等に関する意見や提案を受けてたり各種手続き上の相談、ヒヤリハット対応等の協議を密に行うなど、協力関係を築いている。市主催の会議や研修会等に積極的に参加し、行政職員や他施設職員との情報の共有や意見交換に努め、サービスの向上に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束・人権擁護委員会を設置している。毎月、拘束が無かったかの確認や、研修内容等を話し合い、職員会議で内容の発表や研修を行う事で、職員全体で拘束に関する知識等の共有を行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束排除マニュアル」を整備し、職員会議やユニット会議、身体拘束・人権擁護委員会を毎月開催して、事故防止や身体拘束のない支援について、事例をあげながら意見交換や研修を実施して認識を深めている。玄関や各出入口は施錠しないで見守りや寄り添いにより安全確保に努め、言葉による拘束についても日常の支援の中で喚起し合って改善を図り、利用者の尊厳を大切にされた暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・人権擁護委員会で、毎月、虐待が無かったかの確認や、研修内容を話し合い、職員会議で内容の発表や研修を行う事で、職員全体で虐待に関する知識等の共有を行い、虐待の予防に努めている。また、安全管理委員会が皮下出血等の確認を行い、虐待が見過ごされる事のないように注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	身体拘束・人権擁護委員会で、人権擁護に関する話し合いを行い、職員会議で内容の発表や研修を行う事で、職員全体で権利擁護に関する知識等の共有を行い、権利擁護について理解が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に必ず説明を行っており、利用者や家族の不安や疑問が無くなるまで時間をかけて行っている。また、改定の説明も面会時に書面等を使いながら解りやすい説明に心がけ、改定に関する、不安や疑問が無くなるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月、請求書を送付する際にその月に撮影した写真を同封している。玄関に意見箱を置き、家族から意見を聞けるようにしている。2か月毎の運営推進会議や年1回の家族会で家族から直接意見を聞く機会を作っている。	利用者の思いや意見は、日常ケアの会話や表情、所作等から理解に努め、また、家族からの相談や要望等は、日常の面会やホームの行事への来訪時の対話、運営推進会議、家族会、電話、意見箱等で把握に努めている。これらは経過記録や申し送りで共有し、速やかに協議して改善を図るなどサービスの向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議とユニット会議を開き、施設長・管理者は職員の意見を聞き、意見交換を行っている。また、年3回施設長との面談と年3回の主任との面談があり、その中で意見や提案を言える機会を設けている。	管理者は、日々の申し送りやケアでの対話をはじめ、年3回実施する個人面談や毎月の職員会議、ユニット会議等における聞き取り、また必要に応じた個別面談で意見や要望の把握に努め、施設の運営やサービス向上に活かすとともに、勤務シフトや外部研修受講等についても職員の意向を確認して可能な限り希望に添うように配慮している。「キャリア開発のデザイン」による計画的な教育の実施や、資格取得へのバックアップなど、働きやすい職場環境の構築に日々取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年3回施設長との面談と年3回の主任との面談があり、その中で意見や提案を言える機会を設けている。面談のほかに、目標管理シートを用いた目標管理を行っており。キャリア形成の視覚化を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>目標管理の面談の中でこれから学びたいことを把握し、情報を教育委員会と共有し、外部研修の情報を適宜提供し、研修を受けられるように支援している。また、キャリアデザインに沿った研修も計画的に受講している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修などを通して、グループワークなどで同業者との交流を図っている。それらの情報を共有し、訪問出来るようにしている。そこで、学んだ事をどのように活用するか話し合い、サービスの中に取り入れている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に、不安な事や要望などの聞き取りをおこなっている。また、定期的に焦点情報等を収集し。本人の希望や思いを聴き。安心して日々の暮らしが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時に家族が不安に思うことを聞き、それに対応できるように話し合うことで関係作りに努めている。また、面会時に、日々の様子を伝える等して関係の強化に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人の思いをしっかりと聞き支援して欲しい内容を見極め、他のサービス利用が本人にとって必要である場合は。対応をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする中で、苑の理念に基づいたケアを目標にし、「自分の親だったら」という視点で話し合いを行い。ケアに反映し、その過程の中で関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆が、今までと変わることなく生活できるように、面会や外出を自由にして頂き、いつでも電話で話ができるようにしている。状態の変化があればすぐに連絡を行い、共に本人を支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、馴染みの方の面会もある。大切な場所があれば、個別ケアで出かけることができるように支援し、馴染みの場所等と関係が途切れないように努めている。	利用者の生活・職歴や環境を把握し、馴染みの人や場に関する情報を共有している。家族や友人等の来訪時にはゆっくりと過ごせるようにお茶や面会の場所に配慮し、また家族の協力も得ながら一時帰宅やドライブ、買い物、墓参り、外食、女子会への参加等を支援している。遠方の家族には毎月利用者の状況を写真や広報紙で伝え、馴染みの人や場所の関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で、トラブルが起きないように座席などの位置などを考えて対応している。楽しく日々を過ごして頂けるように、見守りを行う事で孤立感を味わう事が無いように支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、関係性を保つ様になっている。ご家族からの連絡にも対応しており、相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者との日々の会話の中で、希望や意向を聞き取る様にしている。困難な場合は、家族の希望や本人の生活歴から思いに添えるように支援している。	本人の思いや希望を、本人や家族との対話の中で把握し、また会話が困難な利用者からは、表情や仕草等のサインで把握して、その人にとって最適なケアになるよう取り組んでいる。ぬり絵や読書、活花等の趣味や炊事、草取り等得意なことへの取り組みについても希望に添って個別的な支援を行っている。また、飲酒、喫煙等の嗜好に対しても健康に配慮したルールの中で本人の希望を尊重し工夫しながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでのサービス利用状況等は、介護支援専門員や家族から聞き取りを行い、把握に努めている。また、これまでの生活については、日々の会話の中から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活動作等から有する力を見つけ出し、焦点情報等を活用する事で、暮らしの中で反映できるように情報を共有している。心身状態は、朝夕に送りを来なう事で把握できている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者により、毎月ケアプランに基づいたモニタリングを行い、ケアの在り方についてユニット会議においてスタッフ全員で話し合い、意見やアイデアを出し合い、検討を行っている。家族にも聞き取りを行い、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族の意向や、医師・看護師等、関係者からの意見を基に協議して、脳トレやリハビリを含む、きめ細かな解りやすい介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、利用者にとって最善のプランになるようユニット会議で協議して改善を図っている。支援の実施状況は「経過記録」「バイタルチェック表」等に詳細に記録して情報を共有している。利用者の状況の変化に対しても随時モニタリングを行い現状に沿ったプランに変更して、支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の実践は経過記録へ個別に記録している。気づきや工夫は、朝夕の申送りを通して、情報を共有している。問題が発生した場合、速やかにカンファレンスを開き、スタッフ全員で話し合いを行い、ケアの統一等を行うと共に、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズへの対応は、柔軟に支援できている。その時々にも生じた状況に応じ、サービスの多機能を生かした支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを又えしている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの自然や地域にある施設等に日々触れる機会を設け、豊かな暮らしを楽しめるように支援している。お寺参りや神社を掃除したり、地域の行事に参加し、地域との繋がりを大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	家族や本人の希望されるかかりつけ医に受診できる様に支援している。看護師が健康情報提供書を作成し、かかりつけ医と連携を図れるようにし、適切な医療を受けることができるように支援している。	利用開始時に、病歴やかかりつけ医を把握し、本人や家族が希望する医療機関を利用している。通院に際しては「健康情報提供書」を作成して主治医と密な連携を図っており、利用者の状況によっては訪問診療も実施されている。受診の状況は詳細に記録され、家族と密に連絡を取り合い共通の認識で対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中・夜間を問わず、異常があればその都度、看護職員に報告を行い、指示を受けることで連携が図られている。また、申し送りでも看護職員へ状態報告を行い、相談が出来る体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、サマリーや情報提供書を作成している。入院中は定期的に看護職員が状態確認を行い、病院のソーシャルワーカーと連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応指針について入所時説明をしている。また、ご本人の状態の変化に応じて、都度、家族とカンファレンスを実施し、家族と今後のケアの方向性を決めている。	重度化や終末期のケアについては、入所時に「重度化した場合における対応に関する指針」で説明し、家族の同意を得ている。利用者が重度化した時点で、主治医や家族と十分なカンファレンスを行い、家族の希望に添って役割を分担して可能な限りの支援体制で対応し8件の看取りを実施した。看取り実施後は、全職員で振り返りを行い改善に繋げている。利用者の重度化や看取りに伴う職員の不安感の軽減や、ケアの対応に対して、管理者はフォロー・サポートする体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生などに対応して、マニュアルを作成している。職員は必ずマニュアルに目を通して、定期的な勉強会を開き、実践力が身に付くように訓練している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>職員教育・研修計画の中に組み込まれており、職員全体で訓練を行っている。また、運営推進会議でも歩行困難者・介護度別の人数等の周知を行っている。</p>	<p>夜間想定を含む火災・風水害発生時の通報、避難、消火等の訓練を消防署の立会いで年2回法人全体で実施し、隣接するミニデイサービスや居宅介護支援事業所との協力体制が構築されている。また、自動通報装置は住民にも通報されるように組み込まれており、災害時の住民の役割も明確にされている。スプリンクラーや自動通報装置、消火器等も設置され、卓上コンロ、ラジオ、懐中電灯等も完備している。また、貯水タンクの設置や保存食も必要分備蓄している。原子力発電所災害に備えて、ヨード剤を保管し自衛隊の協力を得て、全員で避難訓練を実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助の際は、必ず声掛けを行い、本人の了承を得て実施している。トイレ時、入居者間のでトラブルにならないように声掛けを行い、また、身体拘束・人権擁護委員会が中心となり職員間でも注意を呼び掛けている。	人格の尊重やプライバシー保護については、法人全体で計画的に研修会を開催して意識づけに取り組んでいる。更衣や排泄、入浴時のケアに際しては、プライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように利用者毎のケアの方法を共有して実践に努めている。居室やトイレ、浴室はプライバシーが確保され、広報誌への写真等の記載については、入所時に同意を得ており、利用者にかかる台帳等の取扱い等も適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択から、入浴や活動への参加の是非に至るまで、ご本人に選択してもらっている。拒否時は、時間や日程を変更する等、可能な限りご本人の意向に沿ったケアが提供出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動の参加については、ご本人が参加の是非を決定しており、無理な声掛けは行わず、自分のペースで生活して頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎朝、蒸しタオルで顔を拭き、化粧水・化粧をして頂く時間を設け、その方らしい身だしなみやお洒落を楽しんで頂けるようにに支援を行っている。		
		○食事を楽しむことのできる支援		身体状況に伴う食事制限や、形態・栄養バランス・利用者の好み等に配慮しながら	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	肉魚が苦手な方には別メニューを用意する等、食事の時間を楽しんで頂き、食欲低下にならないように支援している。月に1回、おかず作りの時間を設け、作る楽しさを提供できるようにしている。	ら、差し入れや菜園で収穫した野菜も活用して季節感のある食事作りに努めている。おせち、誕生会、節句等の行事食や、季節の花見やソーメン流しなどの外食、月1回利用者によるおかず作り、焼き芋、団子、あく巻など手作りのおやつ、家族との会食、園庭でのお茶、梅漬けなど食事が楽しみとなるよう工夫している。食材の下処理や下膳、食器洗い等は利用者も楽しみながら行っている。食事は職員も一緒のテーブルで歓談しながら食事している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を毎日チェックしている。状態の変化があれば、食事形態等を変更して本人が食べやすいように工夫している。また、水分もお茶だけでなく本人が好きな物を提供する等、工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、口腔ケアの声掛けを行い、義歯や舌の上をブラッシングしてもらうようにしている。舌ブラシや歯間ブラシ、スポンジブラシ等を活用して口腔内の清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い、パターンを把握することで、適切な時間でのトイレ誘導の声掛けを心掛けている。本人の状態に応じて尿取りパットやリハビリパンツ等を活用し、自立支援に向けたケアを行っている。	利用者の仕草の見守りや排泄チェック表の活用で、利用者毎のリズムを把握し、誘導や声掛けを工夫して、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。不安や羞恥心にも配慮し、利用者へ添った支援になるよう、ケアの方法や介護用品を工夫して改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、内服等も活用して排便を促している。また、週2回の牛乳を飲んでもらう等して、薬以外でも排泄の支援を行っている。便の形状も記録し、状態把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴については、声掛けを行い、ご本人のペースで週3回入浴できるように支援している。入浴を希望されないときは、時間・日程をずらすなどして、個々に応じた入浴支援を行っている。	週3回の入浴と週2回の足浴が基本であるが、排泄の失敗等に対しては、随時清拭や入浴で清潔を保持し、予定外の入浴希望にも柔軟に対応している。利用者の好みの温度や時間、入浴剤等 細かに配慮してゆっくり入浴を楽しんでいただき、皮膚疾患の手当も行なっている。入浴を拒む利用者には、時間やスタッフの変更など工夫して入浴への意向を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に就寝の時間は、ご本人が決めている。また、入眠前に希望があればお酒を飲まれる等、個々に応じた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情により個々の情報を把握している。バイタルサインや一般状態の変化があれば看護師に報告し、主治医と連携を図りながら、内服の変更も行っている。服薬時は、本人の名前や日付を読み上げ、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割が出来るように掃除や盛付け等、様々な活動へ参加して頂いている。読書や飲酒等、その方に応じた嗜好品や趣味が出来るように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	月1回の買い物・外食・ドライブ・お寺参りがあり、外出を楽しまれている。また、2カ月毎に希望に応じて個別ケアを行い、ご本人が希望される場所へ出掛けられるように支援している。	隣接のミニディサービスの利用者との談笑や園庭の散歩、墓参、買い物、一時帰宅等利用者の意向に添った外出支援に努めている。毎月買い物や外食、お寺参り、地域のイベントの見学や参加、桜や藤の花見、ドライブ、ソーメン流しなど、季節に合った外出をホーム全体で計画して頻繁に外出しており、利用者の楽しみとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>月1回の買い物時に、支払いを行ってもらうことで、お金に対する理解や意識付けができるように支援している。紛失の可能性等を説明し、了承を得た上で個人での管理が行われ、本人の希望で自由に使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話、手紙の支援は、ご本人の希望に応じて行われている。携帯電話を持参されている方もいらっしゃる為、充電や保管は職員で行い、いつでも家族と連絡が取れるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭のような構造になっており、四季や季節の行事に合った飾りつけや絵を置いたり、リビングでゆっくりとソファで寛げる空間があり、心地よく過ごせる空間作りを行っている。</p>	<p>ホーム全体は、木目を基調とした落ち着いた色彩で余裕ある広さに日当たりが良い。明るいリビングにはテーブルセットや大きなソファが設置しており、掃出し窓から中庭に出て、利用者は自由に散歩やお茶を楽しむことが出来る。廊下にはフットライトを設置して夜間歩行時の安全性を確保されている。整理整頓が十分になされ、室温や湿度、換気等に配慮されている。利用者が作成した季節感のあるカレンダーや絵画、活花、外出や行事の写真などが随所に飾られ、和やかで落ち着いた雰囲気となっており、利用者は好みの場所で四季を感じながらゆったりと気持ち良く寛いでいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングでは、座る位置に配慮し、仲良く過ごせるように配慮している。また、状況に応じてソファで過ごして頂く等、共同空間の中でも独りで過ごせるように配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物については、転倒等の事故の危険性がない限り、自由に持参していただいている。見慣れたものを使用される事で、居心地よく過ごして頂けるように支援している。	余裕のあるフローリング仕様の居室は明るく、電動ベッドとエアコン、整理ダンス、換気扇が設置されている。清掃や整理整頓は利用者と職員で行うなど、衛生面にも配慮した支援に努めている。家庭と同様に落ち着いて過ごせるように、使い慣れた小物家具や時計、家族写真、自分の作品、活花、人形等を自由に持ち込んで、その人らしい和やかな空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLの状態によるものの、更衣や入浴、創作活動に至るまで、声掛けを行い、可能な限り自立して行いえるように支援している。現状で出来ることを最大限に取り組んで頂けるように、事故防止の見守りを行いながら支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない